

## エジプト砂漠地域の気象環境と文化遺産の保存

西浦 忠輝（国士舘大学）

エジプトに限らず砂漠地帯（乾燥地域）において遺跡を含む埋蔵文化財が良い状態で遺されてきたのは、その乾燥した環境のおかげなのです。一般にほとんどの物質の劣化には水が大きく関与しますので、水分のほとんどない砂漠地帯の地中に埋もれていた古代遺跡が今まで遺されてきたのです。水こそ生命の根源であるといわれます。逆に水の無い世界はあらゆる生命が絶え、時間が止まり、そして古代が眠っているのです。しかし、いったん遺跡が発掘されて大気にさらされると、永い眠りから覚め、急速に劣化が進行します。その原因はもちろん水です。その水はどこから来るのでしょうか。雨も確かに降りますが、それはきわめて少ない量です（だから砂漠なのです）。ではどこから？それは空気からです。砂漠地域では1日の中で気温が大きく変化します。夏、冬で気温に差はあるものの、毎日20℃以上の温度差を1年中繰り返しています。この温度の変化に伴って、湿度が大きく変化します。夏では特に差が大きく、最高が90%以上、最低が5%以下となります。晴れの日が続く砂漠地帯では放射冷却により遺構表面が大気以上に冷却されるため、湿度が高い早朝に結露が起きて水が供給されるのです。

さて、それでは地下埋葬室などではどうでしょうか？砂漠であっても湿度はかなり高くなり、その影響が見られます。しかし、温度は極めて安定しているので、湿度が高くない場所では理想的な環境となり、古代壁画が色鮮やかに残されます。サッカラのイドゥートの地下埋葬室の壁画はその典型例といえましょう。